

第12回中小労働委員会（中小共闘センター）確認事項

我々は2017春季生活闘争において、「底上げ・底支え」「格差是正」を通じて、「経済の自律的成長」「包摂的な社会の構築」「ディーセント・ワークの実現」をめざしている。また、名目賃金の到達目標の実現をかかげ、賃金の絶対水準にこだわり、「底上げ春闘2年目」として賃上げの流れを継続させるべく、これまで精力的に交渉を展開してきている。

3月末の状況は、4年連続して賃上げの回答を引き出している。また、大手組合を上回る賃上げの回答を引き出す中小組合もあり、「大手追従・準拠などの構造の転換」が進展している。さらに、非正規労働者の処遇改善においても、正規労働者を上回る回答の引き出しが続いている。「底上げ春闘2年目」の取り組みの結果が現れており、今後も継続が必要である。

一方で、経営側の慎重かつ厳しい態度により交渉が難航している中小組合もある。構成組織は中小共闘へ結集し、中小組合の交渉の支援を十分に行う必要がある。

我々は、先行する組合の成果をすべての働く者の賃上げに波及させるため、以下の取り組みを強化していく。

- 構成組織と地方連合会は連携し、未解決組合の交渉を促す。交渉においては、「経済の自律的成長」に向けた労使の社会的責任と役割を果たすために、月例賃金の引き上げこそが不可欠であることや、企業・産業の存続と競争力強化のために「人への投資」と働く者のモチベーションを高めることが不可欠であることを主張し、要求趣旨に沿った回答引き出しに全力を挙げる。
- 地方連合会と地方の構成組織は情報交換を密に行うとともに、地域フォーラムの開催や「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」第2弾と連動させ、地場の賃金水準や回答引き出し状況などの情報開示を積極的に進め、地場共闘の取り組みを強化する。

「底上げ春闘」はこれからが正念場である。連合、構成組織、地方連合会、単組は互いに連携を強め、月例賃金の引き上げをすべての働く者に波及させるために、最後までともに闘うことを確認する。

以上